

令和4年度進行管理・評価シート

高野町歴史的風致維持向上計画（平成31年1月24日認定）

（最終変更令和2年2月29日）

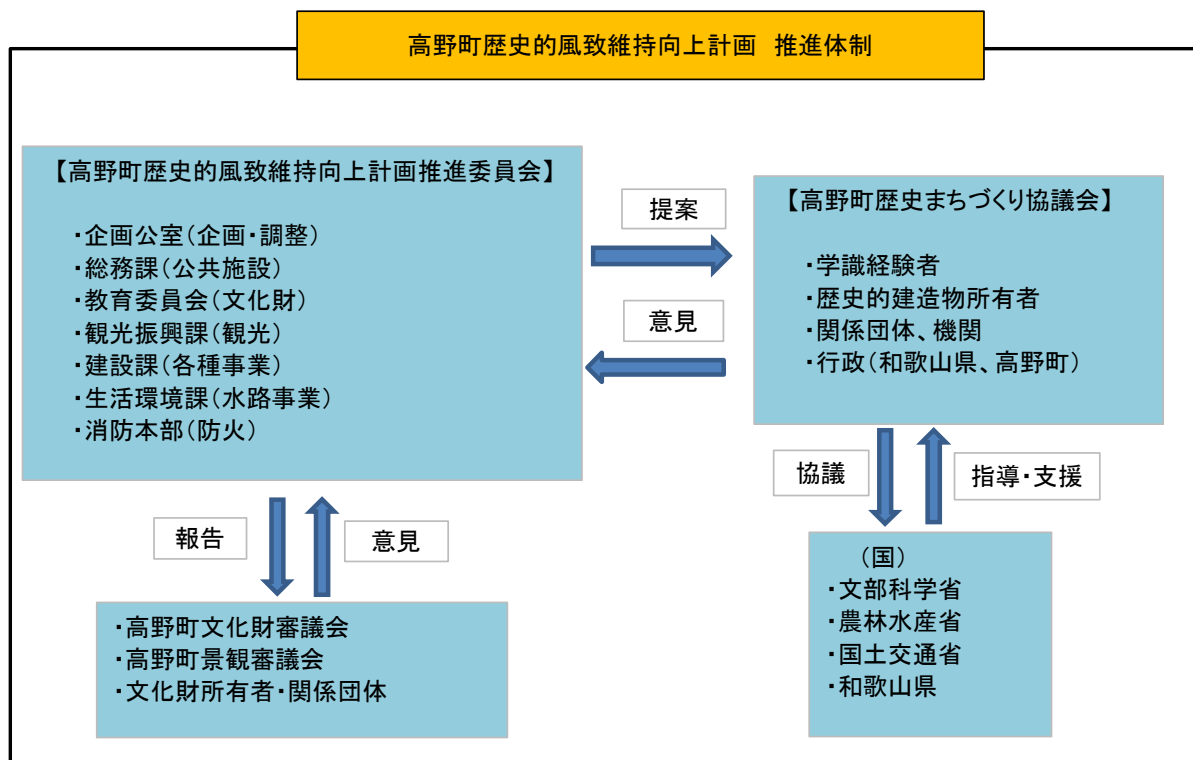
□進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)		
1 計画の推進体制		1
②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)		
1 高野町景観計画		2
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)		
1 電線地中化・歩道設置事業		3
2 道路美装化事業		4
3 高野・熊野参詣道保存管理事業		5
4 史跡金剛峯寺境内(奥院地区)大名墓総合調査		6
5 文化財保存活用地域計画策定事業		7
6 情報発信機能整備事業		8
7 高野参詣道案内・誘導板整備事業		9
8 歴史的まちなみ整備事業		10
9 郷土民俗芸能等支援事業		11
10 高野山学推進事業		12
④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)		
1 文化財の保存・活用に関する取り組み		13
2 文化財の修理(整備)に関する取り組み		14
3 文化財の防災に関する取り組み		15
4 文化財の保存及び活用の普及・啓発に関する取り組み		16
5 埋蔵文化財の取扱いに関する取り組み		17
6 各種団体の状況及び今後の体制整備に関する取り組み		18
⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)		19
初夏の訪れ「青葉まつり」		
⑥その他(効果等)(様式1-6)		
1 高野山の修景整備に関する取り組み		20
□法定協議会等におけるコメントシート(様式2)		21

評価軸①-1
組織体制

		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
計画の推進体制		☐実施済 ☒実施中 ☐未着手	
計画に記載している内容	歴史的風致維持向上を推進するため、行政や文化財の関係者、関係団体、学識経験者などによる高野町歴史まちづくり協議会での意見を踏まえるとともに、本計画に関連する課室の課長、担当職員で高野町歴史的風致維持向上庁内推進委員会を設置し事業の推進を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
高野町歴史的風致維持向上庁内推進委員に対し、庁内における各事業の実施、推進管理及び連絡調整を実施 実施回数： 1回(メールでの連絡および調整) 高野町歴史まちづくり協議会を開催し、各事業の方針、進捗状況の報告、事業評価における意見聴取などを実施 実施回数： 1回(令和4年5月)			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒計画どおり進捗している ☐計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等

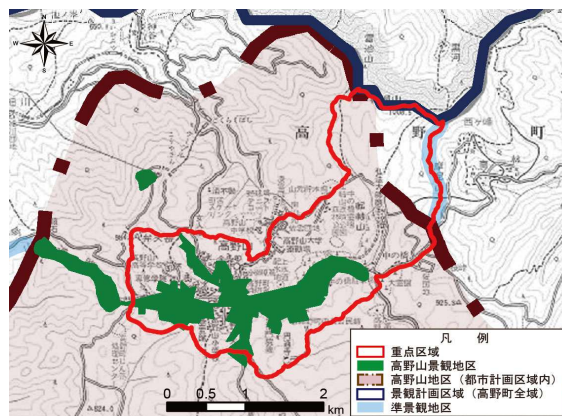


評価軸②-1

重点区域における良好な景観を形成する施策

評価対象年度		令和4年度
項目		現在の状況
景観計画		☐実施済 ☒実施中 ☐未着手
計画に記載している内容	高野町は、豊かな自然と文化を守るため全町域が景観計画区域に指定されている。景観法に基づく届出が必要な行為及び基準が定められ、一定規模以上の建築物・工作物等の開発に対し良好な景観を形成するよう規制している。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
1200年の歴史を持つ高野山には国宝をはじめとする美しい日本建築が多数存在します。その歴史、文化を受け継ぐまちなみ、美しい景観を守り、発展させていくため、届出制度並びに美しい街なみ景観整備事業対象事業補助金の活用等により、良好な景観形成を推進している。 令和4年度 景観計画区域内における届出件数: 14件 令和4年度 美しい街なみ景観整備事業補助金利用件数: 8件		
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒計画どおり進捗している ☐計画どおり進捗していない	平成20年に景観条例を制定、平成21年3月に高野町景観計画を策定した。良好な景観の形成を実施するために建築物などの新築・改築・増築や屋外広告物など、景観が変わる行為を行う際、届出が必要であり、景観計画の基準に適合するよう指導が必要である。	

状況を示す写真や資料等



高野町景観計画区域図


 令和4年度 美しい街なみ景観整備事業による整備
 北室院塀改修工事

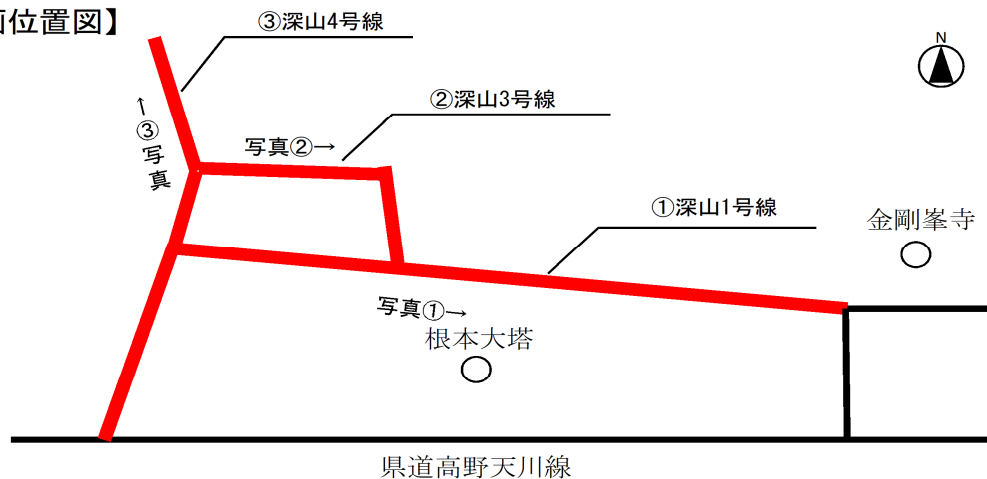
評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
電線地中化・歩道設置事業		☐実施済 ☒実施中 ☐未着手	
事業期間	令和2年度～令和10年度		
支援事業名	無電柱化推進計画事業(無電柱化事業)令和2年度～令和6年度・町単独事業		
計画に記載している内容	史跡金剛峯寺境内に隣接し塔頭寺院が立ち並ぶ地区の歴史的なまちなみに調和し、安全に周遊出来るようにするため、明神社秋季大祭の神輿ルートになっている町道深山1号線、深山3号線、深山4号線の景観・防災・安全を考慮した無電柱化と歩道設置及び水路への景観に配慮した転落防止柵設置を推進する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
無電柱化を実施する。 ①調査測量設計の実施 ②配管設置工事の実施 ③電線管理者による電線等の挿入 ④既設電柱等の抜柱 ⑤歩道設置等の実施 令和4年度予算では②の配管設置工事③電線管理者による電線等の挿入④既設電柱等の抜柱を実施。(いずれも繰越となる)			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☐計画どおり進捗している ☒計画どおり進捗していない		埋蔵文化財包蔵地のため、掘削に関し協議及び調整が必要となる。	

状況を示す写真や資料等

【計画位置図】



①深山1号線



②深山3号線



③深山4号線

評価軸③-2

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和4年度
道路美化事業		現在の状況
		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 令和2年度～令和10年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)令和2年度～令和5年度

計画に記載している内容 重点区域内には中心道路沿いでなく、その他の沿道沿いにも歴史的建造物や文化財が多く存在する。高野山の中心道路である高野参詣道町石道から国道や重要文化財が存在し、史跡高野参詣道女人道へ繋がる地区への周遊を促進するため町道の美化(美装舗装・街灯整備)を推進する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

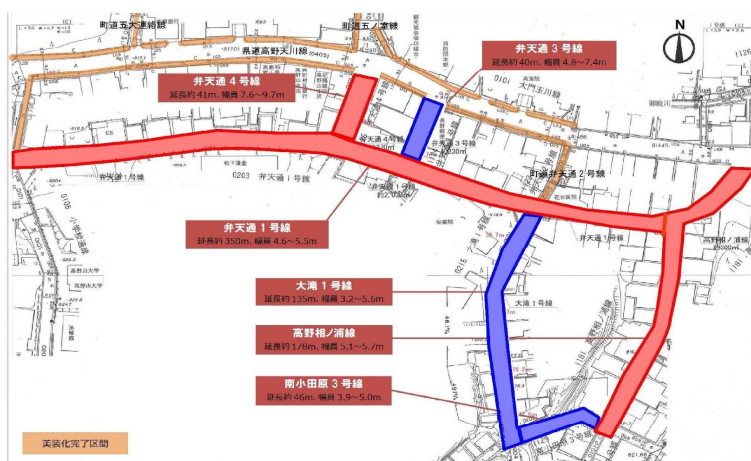
各路線ごとに美化を行う。
 (町道高野相ノ浦線、町道弁天通1号線、町道弁天通3号線、町道弁天通4号線、町道大滝1号線、町道南小田原3号線)
 令和4年度は町道弁天通4号線の美化を実施。(線越となる)

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☐ 計画どおり進捗している ☒ 計画どおり進捗していない	埋蔵文化財包蔵地のため、掘削に関し協議及び調整が必要となる。また、生活道路として利用している道路であるため、事業実施にあたり地元との調整が必要となる。

状況を示す写真や資料等

街なみ環境整備事業(道路美化) 全体イメージ図

全体図



全面平板ブロック イメージ図



歩車分離 イメージ図



	全面平板ブロック (弁天通3号線、大滝1号線、南小田原3号線)
	歩車分離 (弁天通1号線、弁天通4号線、高野相ノ浦線)



弁天通4号線



評価軸③-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
高野・熊野参詣道保存管理事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	令和元年度～令和10年度		
支援事業名	町単独事業 国宝重要文化財等保存整備費補助金 和歌山県文化財保護費補助金 和歌山県世界遺産緊急保全対策事業補助金		
計画に記載している内容	各参詣道の保存活用を図るため日常的な保守点検、環境整備及び参詣道が損傷した場合の速やかな修繕を実施するなど適切な管理を推進する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
高野・熊野参詣道の保存管理については、月1回及び荒天後のパトロールの実施、年2回の草刈りの実施と日常的な環境整備を行っている。参詣道で発生した倒木除去や木橋の補修等の緊急的な参詣道の修繕を実施し、参詣道の良好な環境を維持している。京大坂道不動坂修繕:1件(木橋修繕) 小辺路修繕:1件(大滝沢渡第2木橋修繕) 町石道修繕:1件(26町石付近の橋 橋脚修繕) 女人道修繕:1件(一本杉奥護岸修繕)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	参詣道の良好な環境を維持するため、定期的なパトロールを継続するとともに、経年劣化等の状況を把握し、破損カ所等の計画的な修繕の実施に努める。		
状況を示す写真や資料等			
京大坂道不動坂 経年による劣化  倒木・法土の状況   小辺路(木橋修繕)			

評価軸③-4 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項		
項目		評価対象年度 令和4年度
史跡金剛峯寺境内(奥院地区)大名墓総合調査		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成28年度～令和6年度	
支援事業名	町単独事業	
計画に記載している内容	史跡金剛峯寺境内であり、史跡高野参詣道町石道が通っている奥院地区の適切な管理、効果的な活用のためには、地区内に存在する数多くの大名等の墓所の把握、価値付けが必要である。 各藩主や戦国大名について、墓所の位置、構成、墓石の銘文などの調査を行うことにより、奥之院の墓所の内容を明らかにする。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
『報告書Ⅱ』に掲載予定の中の橋以北の調査済み石塔について、銘文一覧表や石塔配置図についての整理作業及び現地校訂が行われた。		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	奥之院に所在する石塔のうち、中の橋以北の調査が済んだ。成果品として「銘文編」の報告書(2冊目)の作成の材料が整った。エリアは3分割とし、今後中の橋以南の銘文調査、報告書の作成が続く予定。	
状況を示す写真や資料等		
 筒井順慶墓所 		
大名墓総合調査委員会による奥之院石塔についての啓発活		

評価軸③-5

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和4年度
文化財保存活用地域計画策定事業		現在の状況
		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 令和元年度～令和5年度

 支援事業名 町単独事業
 文化遺産総合活用推進事業(文化財保存活用地域計画)

 計画に記載している内容 高野町の各種歴史的文化的資源の適切な感知・活用のため文化財全般にわたる基礎調査や台帳整備等が必要である。
 文化財保存活用地域計画を策定し、高野町の歴史文化の振興及び地域活性化を推進する。また、得られた情報はホームページ等の活用やシンポジウム等の開催により町内外の人々に適切な情報発信を推進する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

 文化財保存活用地域計画策定のため、町内に所在する文化財の内、石造物を対象として調査を実施。
 今年度は、高野山地区の悉皆調査を実施し、579件の石造物を確認した。

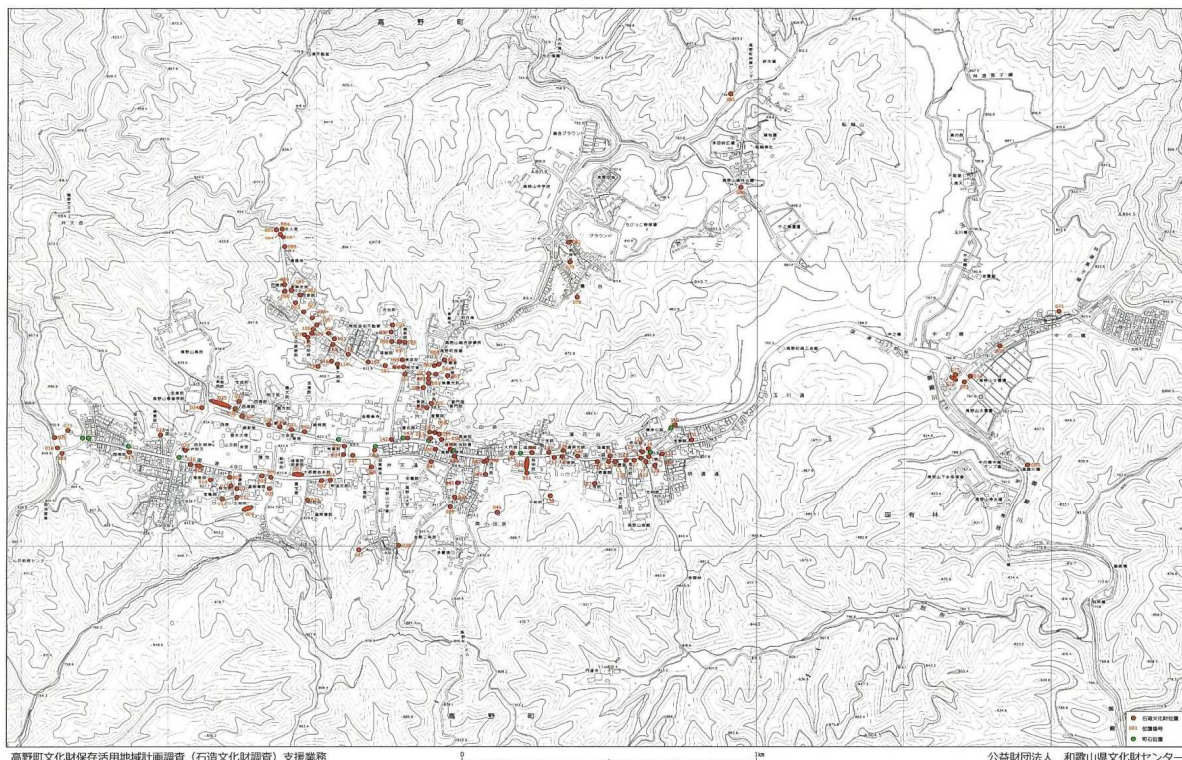
進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

☐計画どおり進捗している
☒計画どおり進捗していない

各種未指定文化財の件数が膨大であるため、基礎調査に要する時間が当初計画より多くかかっており、全体計画の見直しが必要である。

高野山内石造文化財所在位置図 (Scale=1/5000)



高野山内石造文化財 位置図

評価軸③-6

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和4年度
		現在の状況	
情報発信機能整備事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成30年度～令和10年度		
支援事業名	町単独事業 旅行環境整備事業費補助金 (地方での消費拡大に向けた旅行環境整備支援事業)		
計画に記載している内容	訪れた観光客や地域住民などに観光情報センターやICT等を活用し、歴史や文化、観光、各種イベントなど、各種情報提供を幅広く発信していくために、観光情報センターでの展示、Wi-Fi環境の整備、ホームページの充実、多言語情報発信ツールなどの情報発信機能整備を推進する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
高野山観光情報センターを整備、平成30年7月2日開館 平成30年度来館者数 57,489名 令和元年度来館者数 81,310名 サイネージ整備:2基、展示物の多言語化、iPad設置:4器、QRTランスレーターの導入 令和2年度来館者数 63,939名 令和3年度来館者数 75,772名 令和4年度来館者数 75,505名 計 延べ354,015名(令和5年3月31日現在)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	年々歳々行われる法会等を説明する多言語化資料の作成が必要		
状況を示す写真や資料等			
      			
サイネージ(2基) 高野山のPR映像 月間の行事予定 を発信 展示物の多言語化 パネルについては、日本語及び英語で表記 他の言語については、QRTランスレーターを導入し、フランス語、ドイツ語、タイ語、中国語に変換。 パンフレットラック 多言語パンフレットを準備 iPad(4器)整備 情報収集、多言語対応で利用 JNTOカテゴリー2の観光案内所			

評価軸③-7

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和4年度
		現在の状況	
高野参詣道案内・誘導板整備事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	平成30年度～令和10年度		
支援事業名	観光庁 地域観光資源の多言語解説整備支援事業(平成30年度～令和元年度) 観光庁 観光地の「まちあるき」の満足度向上整備支援事業(令和2年度～) 文化庁 文化資源活用事業費補助金(令和2年度～令和4年度)		
計画に記載している内容	山中の参詣道を巡る参詣者や観光客の視点に立ち、迷うことなく巡れるよう案内板や誘導板の整備を行う。近年増加している外国人観光客にも対応できるよう統一されたデザインや多言語表示などの整備を進める。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
平成30年度	高野参詣道女人道を中心に、英語表記の原文作成。		
令和元年度	高野参詣道町石道の英語表記の原文作成。		
令和2年度	高野参詣道町石道及び女人道沿いに多言語解説案内板を設置		
令和3年度	高野参詣道女人道沿いに多言語解説案内板を設置		
令和4年度	高野参詣道女人道沿いに多言語解説案内板を設置		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	高野参詣道は史跡や世界遺産登録に登録されており関係部署が多岐にわたるため、関係者協議を行いながら事業を進める。		
状況を示す写真や資料等			
令和4年度 多言語解説案内板の整備成果品 (高野参詣道女人道・8基)			
			
女人道を紹介する多言語解説案内板の整備 助けの地藏 1基	女人道を紹介する多言語解説案内板の整備 大峰口女人堂跡 1基	女人道を紹介する多言語解説案内板の整備 黒河峠 1基	女人道を紹介する多言語解説案内板の整備 楊柳山 1基
			
女人道を紹介する多言語解説案内板の整備 黒河口女人堂跡 1基	女人道を紹介する多言語解説案内板の整備 お竹地藏 1基	女人道を紹介する多言語解説案内板の整備 谷上女人堂跡 1基	女人道を紹介する多言語解説案内板の整備 弁天嶽 1基

評価軸③-8

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

評価対象年度		令和4年度
項目		現在の状況
歴史的まちなみ整備事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	令和元年度～令和10年度	
支援事業名	国庫補助事業 高野町歴史的観光資源高質化支援事業(令和3年度)	
計画に記載している内容	高野町の主要な観光地である高野山地区では、多数の外国人観光客が史跡や寺院巡りなどの街歩きを楽しむ姿が見られる。 町や町民、寺院等が連携し、歴史文化を生かした観光振興を図るため、歴史的な街並みを阻害する建築物等の美装化を実施し、外国観光客の満足度向上やインバウンドの促進を図る。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
事業主体:(宗)金剛峯寺(高野町:補助関係事務) 金剛峯寺木柵更新工事(本坊エリア)(令和3年度) 実績 H=1.6～1.8m×L=700m 老朽化や転倒により景観を阻害していた、史跡金剛峯寺境内「金剛峯寺本坊エリア」の景観改善がなされた。		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	関連する他の補助事業との調整を図りながら、該当事業を進めて行く。	
状況を示す写真や資料等		
令和4年度 金剛峯寺木柵更新工事(壇上伽藍エリア)		
  施工後		
令和4年度 金剛峯寺ベンチ更新工事(壇上伽藍エリア)		
  施工後		

評価軸③-9

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和4年度
		現在の状況	
郷土民俗芸能等支援事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	令和元年度～令和10年度		
支援事業名	町単独事業		
計画に記載している内容	高野町の各種民俗芸能の保存伝承のための用具の維持管理と後継者指導育成などの活動事業費の補助や必要に応じて調査研究を行うとともに民俗芸能等に関する記録を作成する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
新型コロナウイルス感染症の影響により、民俗芸能団体の活動が休止されていたため、支援事業を実施できなかった。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☐ 計画どおり進捗している ☒ 計画どおり進捗していない		民俗芸能を実施する団体の活動を支援することで、民俗芸能の維持伝承に努める。	
状況を示す写真や資料等			

評価軸③-10

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
高野山学推進事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	令和元年度～令和10年度		
支援事業名	町単独事業		
計画に記載している内容	高野山学は歴史と文化によって育まれた「高野山」を体系的に学び、再発見することを目的とする。弘法大師空海が開創して以来、高野山は真言密教の聖地として独自の文化を創り、今日まで継承してきた。その文化を歴史・思想・芸術・信仰・自然・政治・建築などのさまざまな視点で学ぶことができる。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
基本講座(第1回～第8回)、中級講座(2回)、体験講座(1回) 延べ人数1519名が受講した。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	高野山が育んできた文化を様々な視点から学び、その魅力を再認識していただくための講座を開催することで、高野山の魅力を発信していく。		
状況を示す写真や資料等			
			
講義風景			

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	令和4年度
文化財の保存・活用に関する取り組み		現在の状況
		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

計画に記載している内容
文化財は指定・登録の有無を問わず調査を行い、価値が判明したものについては、町指定や国の登録制度などの活用、または歴史的風致形成建造物や町景観重要建造物の指定を検討するとともに、適切な保存管理や活用が図られるよう、計画的に修理・整備や耐震補強等の防災対策等を行なう。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

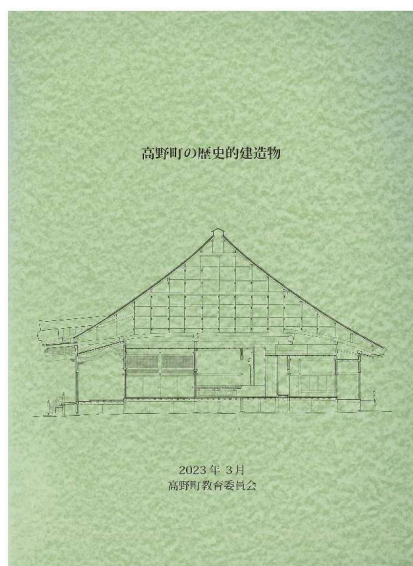
文化財の適切な保存管理や活用を図るため、高野山内の石造物を対象とした悉皆調査を実施し、578件の石造物を把握した。また、昨年度まで実施した建造物調査をまとめた報告書を作成し、高野山の歴史的建造物の概要や価値についてまとめた。これにより、文化財の適切な保存活用に寄与した。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	各種の未指定文化財の調査を進め、地域の文化財の全体把握に努める。また、文化財の適切な維持管理や防災対策等が進むよう、文化財所有者や関係機関との連携に努める

状況を示す写真や資料等



おたけ地蔵と周辺の石造物



建造物調査報告書

評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

項目		評価対象年度	令和4年度
文化財の修理(整備)に関する取り組み			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	文化財の修理は、過去の改変履歴や調査記録などの活用と、新たな調査研究に基づき実施することを基本とする。整備にあたっては、関係機関の指導を仰ぎつつ、それらと連携して適切な整備と修理を実施する。また、各種補助制度を積極的に活用するとともに、民間企業等の支援や連携の推進を図っていくものとする。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
文化財の修理としては、3件の建造物(重要文化財)の修理と1件支援を行った。また、次年度の文化財修理等が円滑に実施できるよう所有者や関係機関と綿密な調整を行った。 これにより、文化財の適切な保存活用に寄与した。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	非常に多くの文化財が存在するため、各文化財の劣化状況等の把握に努め、計画的に修理が実施できるよう、文化財所有者や関係機関との連携に努める		
状況を示す写真や資料等			
			
重要文化財建造物 普賢院四脚門 修理状況			
			
重要文化財建造物 金剛三昧院経蔵 修理状況			

評価軸④-3

文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
文化財の防災に関する取り組み		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
計画に記載している内容	火災報知器や消火設備等の防火設備の設置に努め、防災教育・訓練は文化財の所有者等に対して防災に係る周知啓発に取り組み、所有者・管理者・消防が一体となった防災訓練を実施する。 地震への対応としては耐震診断を進め、可能な限り耐震補強工事を実施して毀損・滅失のリスク軽減を図る		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
文化財所有者の文化財防災計画作成への指導・助言を行った。 文化財防災設備の保守点検への支援を行った。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		所有者、管理者、消防団、消防署と連携し、設備の把握や、防災訓練を実施することで、適切な文化財の防災体制が維持できるよう、文化財関係者の連携に努める。	
状況を示す写真や資料等			
			

防火設備の点検状況

評価軸④-4 文化財の保存又は活用に関する事項	
評価対象年度 令和4年度	
項目 現在の状況	
文化財の保存及び活用の普及・啓発に関する取り組み	
☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
計画に記載している内容	町内外の人々を対象として実施する普及・啓発は、案内板などの設置や文化財パンフレット等の配布とともに、近隣市町や文化財所有者・管理者と協働で参詣道散策や指定文化財の公開等のイベントを開催、町民を対象とした普及・啓発は、広報誌や各種イベント開催などを通じて文化財に対する意識の向上を図り、文化財への愛着を育んでいく。
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で	
町広報誌で月1回の文化財関係記事の連載を実施し、町民の文化財に対する意識向上に寄与した。新型コロナウイルス感染症の影響により、参詣道等の文化財を活用したイベントは実施できなかった。	
進捗状況 ※計画年次との対応	
実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☐ 計画どおり進捗している ☒ 計画どおり進捗していない	文化財に関する普及啓発については、様々な年齢層の方々に対応できるものを検討実施していく。
状況を示す写真や資料等	
昔から今も残る 高野町内の名所シリーズ 74 花坂  ▲「紀伊国名所図会」四巻 四之巻「高野町の巻(下)」より ▲「紀伊国名所図会」四巻 四之巻「高野町の巻(上)」より 「紀伊国名所図会」三編「花坂」の挿し絵には、道の両側に家が立ち並び、高野山を往來する多くの人や馬が描かれています。「花坂」はどのようなところだったのでしょうか。「紀伊続風土記」には次のような内容が記されています。「花坂村の広さは東西約2.4km、南北約4.5kmで、村は四つの在所に分かれる。中央を中村といい、本郷である。麻生津(紀の川市麻生津)からの高野街道で、旅舎(旅館や宿屋)が多く、その駅舎(宿場の旅館)の外見は、山間の家のような趣はない」と。四つの在所とは、中村・不動野(または上花坂)・下村(または下花坂)・矢立です。宿場町として賑わっていました。和歌山の方向から高野山へ向かう人は、かつらぎ町志賀を通過し花坂に至り、矢立で町石道と合流します。花坂は交通の要衝でした。また花坂では、「弘法大師が牛を嫌ったことから、当村から高野山上へは牛を登らせない。諸々の荷物は馬に背負わせて登る。そのためこの村には馬が非常に多い」(『紀伊続風土記』)ということです。「紀伊国名所図会」の挿し絵には馬を引っ張って往來する人が花坂や町石道の途中の踏石の先、押上り道にも見えます。花坂ははじめ「鼻底(鼻底)」と記したようです。それは花坂というところが、諸山の尾の突き出た先端に集まる谷底(鼻)にある土地だからです。「鼻底」はのちに「花坂」と改められたと伝えられています。 (教育委員会) 昔から今も残る 高野町内の名所シリーズ 73 東細川阿弥陀堂 (細川)  ▲東細川阿弥陀堂 東細川阿弥陀堂は南海高野線の通る山側にあります。江戸時代の天保頃の地誌「紀伊続風土記」には、「阿弥陀堂 境内周二十間、龍華院の東半町にあり、旧は龍華院の本堂にて彼境内にありしを、後今の地に移す、本尊阿弥陀仏、行基の作といひ伝ふ」と記されています。古くからのお堂であることがわかります。本尊の阿弥陀如来立像については、昭和53年(1978)に発行された太田古朴書の「美仏参観」に、「本体のけずり直しと、台座、後背の補作」があるが、「細川で最も古い仏像」との記述があります。東細川阿弥陀堂で伝統的に行われているのは粕わかしです。粕わかしは、1月28日に本尊の阿弥陀如来と大師講などの掛け軸へお供えをした上、阿弥陀堂で粕汁を炊いて振る舞う行事です。現在も地元の方によって行事が連絡と受け継がれ、東細川阿弥陀堂は大切に守られています。 (教育委員会) ※おねびシリーズ「神谷北地蔵堂」について、所在地は「西郷」ではなく「細川」の字庄蔵院に該当します。	

高野町広報での文化財の紹介

評価軸④-5

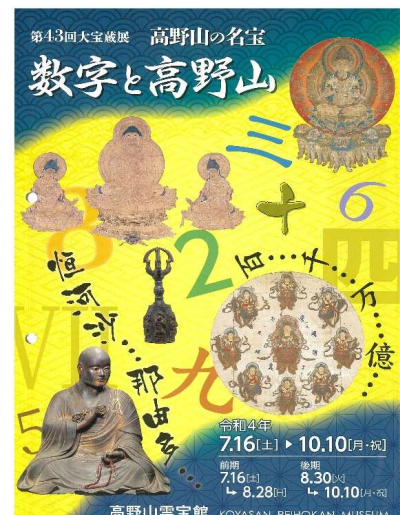
文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
埋蔵文化財の取り扱いに関する取り組み		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
計画に記載している内容	埋蔵文化財包蔵地において土木工事等を行う際、届出・通知の必要を周知し、その義務を徹底するとともに、該当する場合は開発事業者との事前調整を経て、試掘・確認調査、発掘調査などで現状把握を行い、その調査結果をもとに、適切な保護措置を和歌山県教育委員会に指導・助言を受けながら実施する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
埋蔵文化財の取り扱いについては、手引きを作成して配布することで、埋蔵文化財包蔵地での土木工事等を行う際の手続きを開発業者に示している。また、18件の埋蔵文化財発掘の届出・通知があり、特に事前の現状把握が必要な場合については、確認調査を実施している。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		埋蔵文化財包蔵地での立会調査や確認調査のデータを蓄積することで、開発行為の際に適切な埋蔵文化財の保護できるように努める。	
状況を示す写真や資料等			
 埋蔵文化財の確認調査 掘削状況			
 埋蔵文化財の確認調査(土層堆積状況)			

評価軸④-6

文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
各種団体の状況及び今後の体制整備に関する取り組み		☐実施済 ☒実施中 ☐未着手	
計画に記載している内容	文化財の保存・活用に取組んでいる団体等と連携し、これらの団体の活動の活性化を図るため、情報提示や人材育成等を支援し、地域住民を主体とした文化財保護活動を推進していく。		
定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で			
多数の文化財を管理する公益財団法人高野山文化財保存会の企画展のチラシ作成、霊宝館だよりの作成等の文化財活用に関する広報活動に対して補助を行うことで団体の活動を支援し活性化に努めている。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）	
☒計画どおり進捗している ☐計画どおり進捗していない		文化財保存・活用団体の構成員の減少や高齢化により、円滑な活動が困難になりつつある。	
状況を示す写真や資料等			



企画展 チラシ作成への支援



霊宝館だよりによる文化財の周知への支援

評価軸⑤-1

効果・影響等に関する報道

報道等タイトル		評価対象年度	令和4年度
年月日	掲載紙等		
初夏の訪れ「青葉まつり」	R4.6.14	毎日新聞	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
新型コロナウイルスの影響で3年ぶりの開催となり観光客で賑わった事により、町内外へのアピールと高野町の歴史まちづくりの周知につながった。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☐ 計画の進捗に影響あり ☒ 計画の進捗に影響なし			
状況を示す写真や資料等			
著作権保護のため新聞記事は掲載しません。			

		評価対象年度	令和4年度
項目			
高野山の修景整備に関する取り組み			
計画に記載している内容	高野山は弘法大師が真言密教の道場として開創された伝統と歴史あるまちであり、聖と俗を隔てる境界に幾重にも包まれている。高野町民はその歴史、文化を受け継ぐまちなみを守り、美しい景観をつくっていく		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付			
高野町では平成2年「電線地中化事業」を皮切りに、聖地高野山の景観を取り戻すため、条例整備や修景整備に関する補助事業の実施、町民への修景整備補助制度の創設などの様々な事業を実施し、歴史的な修景整備に取り組んでいる。 平成14年3月度「高野町の歴史と文化を活かした街並景観及び自然景観に関する条例」を制定 平成16年7月「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録 平成20年1月景観行政団体に指定 平成20年12月に「高野町景観条例」を制定 平成21年3月に高野町景観計画を策定 平成31年1月「高野町歴史的風致維持向上計画」認定 令和2年3月「高野町歴史的風致維持向上計画」変更			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☐ 計画の進捗に影響あり ☒ 計画の進捗に影響なし			
状況を示す写真や資料等			
			
現在の町なみ			

法定協議会等におけるコメント

(様式2)

評価対象年度	令和4年度
・法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称: 令和5年度第1回 高野町歴史まちづくり協議会	
会議等の開催日時: 令和5年5月19日	
(コメントの概要)	
議事の内容	
(1)高野町歴史的風致維持向上計画の軽微な変更について(報告) (2)高野町歴史的風致維持向上計画進捗評価(案)について (1)・(2)ともに、意見・指摘事項はありませんでした。	
(今後の対応方針)	
今回の会議ではコメントはありませんでした。 令和4年度の進捗状況につきましては、コロナ禍における若干の遅れが見られますが、令和5年度は中間評価の年でもあります。11年後の「弘法大師御入定1200年御遠忌」に向け、歴史的風致維持向上計画に基づき計画が進められるよう取り組んで参ります。	